

ネットワークアンケート ⑦

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 糖尿病患者さんに自然災害時に備えての指導を行っていますか？

近年、地震、台風、津波などの自然災害が国内外で数多く発生し、そのたびに報道などで被災者の惨状が伝えられてきました。それらの災害の恐怖から私達は今までも多くのことを学んできましたが、実際にどれだけ生かされているのでしょうか。“備えあれば憂いなし”

いつ見舞われるかわからない災害への備えは、日常の薬剤が欠かせない糖尿病患者さんはもちろん、医療スタッフ側も再確認しなくてはならない課題です。

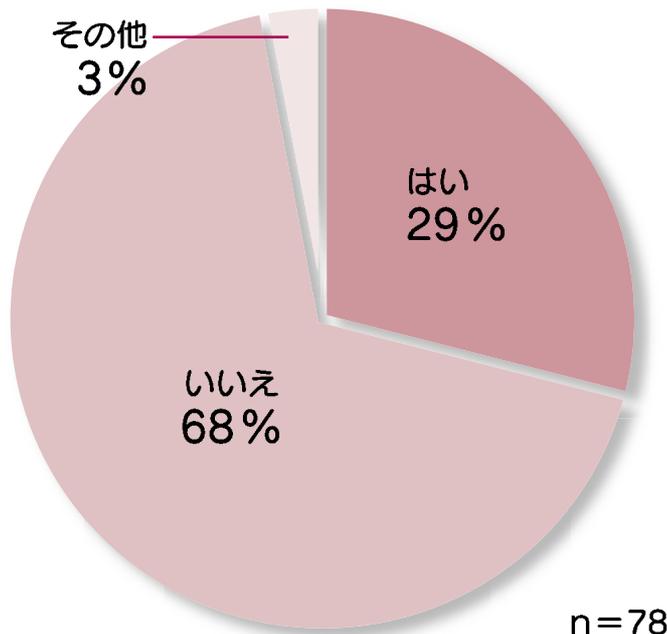
〔回答数：医療スタッフ78(医師16、看護師23、准看護師1、管理栄養士7、薬剤師13、臨床検査技師6、理学療法士1、その他。うち糖尿病療養指導士18)、患者さんやその家族38(食事療法を行っている230、運動療法を行っている197、経口薬を服用している139、インスリン療法を行っている222。重複回答)〕

結果をみると、糖尿病医療スタッフの7割が自然災害時に対する「備え」について、患者さんに指導を行っていませんでした。行っていると答えた3割の医療スタッフの中で「どのような患者さんに指導を行っているか」の問いに対し、「インスリン療養中の患者さんに行っている」「重篤な患者さんのみに行っている」と答えた人を合わせて45%でしたが、裏を返せば災害非常時の対処について、知っておくべき必要のある患者さんでさえ指導を受けているのは全体の13%でしかありません。また「糖尿病患者さん全員に行っている」と答えたのは27%、「患者さんに尋ねられた時だけ答えている」は27%でした。

Q. あなたの病院・クリニックは糖尿病患者さんに対する災害時の指導マニュアルがありますか？

n=65

オリジナルで作成したマニュアルを用意している	7%
他院などで作成されたマニュアルを使用している	6%
関連書籍などのコピーを配布、説明	15%
院内にポスター展示や閲覧資料を置いている	7%
その他	63%



マニュアルを作成しているのは全体の1割余りで、何らかの資料を用意している人を合わせても35%という数字でした。その他の63%は「対策をとっていない」「具体的に考えたことがない」「作る必要性は感じているがマニュアルはない」などの未作成群です。回答数が少ない今回のアンケート結果にも、関心の薄さがうかがえます。

Q. 災害が起こり、被災地で診療を行う際、どのような不安がありますか？(自由回答)

多かった声が、「SMBGの消耗品やインスリン製剤などの薬剤不足」。これに続

き、「カルテがない中、患者さんが自分の使用している薬剤や治療内容をきちんと把握していない場合」を不安とする声も多数ありました。薬品名や使用量などはカルテが呼び出せないもしくは滅失してしまった状況下では、患者さんの記録あるいは記憶を頼りにするしかないので“おくすり手帳や健康管理手帳、自己管理ノート”の存在はやはり重要となるようです。また、「医療スタッフの参集不能・不足の中、どの程度診察ができるのか想像がつかない」など、地域内での連携、病院全体の災害時対策なども課題としてあげられていました。

自然災害を体験した際に困ったこと

「阪神淡路大震災の時の糖尿病救護班での経験から、糖尿病患者にふさわしい食事の配給ができていなかった。紹介できる医療機関リストがなく、自主的に作成したことがあります。薬剤は災害発生から数日後に確保できました(診療所・医師)」。「福岡の大地震を経験し、何も備えをしていなかったで慌てました。日頃訓練を行っていないので、今のままだとパニックに陥るのは必至だと思います(医師・200床未満)」。「阪神淡路大震災の時に病院に手伝いに行きましたが、水が出なくて手洗いにも不自由でした。震災のなかでショックを受けている方が多く、心のケアの必要性を強く感じました(看護師・200床以上)」